

カトリック香里教会 神の母聖マリア 2021年1月1日

その時、羊飼いたちは、急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て彼らは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

-ルカ2章-

主の降誕と、主の母マリアさまにお捧げする新年のお喜びを申し上げます。

毎年迎える降誕祭ですが、自粛を余儀なくされたコロナ禍で、皆さんは「主のしるし」を何処に見出されたでしょうか？

たらいで赤ちゃんを洗っていた人が、汚れた水と一緒に赤ちゃんまで捨ててしまったと聞いたらびっくりなさると思いますが、私たちが豊かさ引き換えに捨ててきた「貧しさ」の中に、もしや、主がおられたとしたら？！

まだ赤ちゃんだった時、お母さんがすべてだったように、神様を必要としていた人類は、物質的にも知的にも豊かさが増したとき、神はいらないと考えるようになり、手あたり次第、欲望の先に「豊かさ」を求めようになりました。そして皮肉にもその豊かさの中で「生きがい」を探している人がなんと多いことでしょうか！

今回のコロナ禍は、ひたすら豊かさを糧として生きてきた自制を知らない人類に、「真に必要な糧」を気づかせるため、ストッパーをかけたかに見えるのです。



” 布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つかるであろう。これが、あなた方へのしるしである “



私たちにとって本当に大切な糧は「主の飼い葉桶」です。それは豊かさではなく「貧しさ」の象徴です。釜ヶ崎で活動している人たちは、主の飼い葉桶は造らないそうです。“釜ヶ崎” そのものを「飼い葉桶」と見ているからです。

“ さあベツレヘムへ行こう。
主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか”

あなたにとってベツレヘムとは何処でしょう？ そこには無力で貧しい幼子に奉仕しておられる母マリアさまと、母子を支えておられる父ヨセフさまがあなたの訪問を待っておられます。